

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)青葉補修基地建築工事	階数	地上4F
建設地	神奈川県横浜市青葉区下谷本町15-1-2、3-4-5-7-20-21-22	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火地域・指定なし	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2024年05月06日
敷地面積	10,960 m ²	作成者	松井伸也
建築面積	572 m ²	確認日	2024年05月18日
延床面積	2,267 m ²	確認者	藤井健司

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.0 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境効率 BEE = 環境負荷 L / 環境品質 Q	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.6	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。 照度が500lx以上1000lx未満。	事務室の天井高2.7m以上。 建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI=0.69。 BEI=0.76。	節水コなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSとOAフロアを使用している。	ライフサイクルCO ₂ 排出率83%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)青葉補修基地建築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 24 %削減



一次エネルギー消費量基準

適合

外皮基準

適合

受付日

2024年5月24日

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①BPI_m=0.69。③BEI_m=0.76。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

2

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩照度が500lx以上1000lx未満。

⑪JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。

⑰ステンレスダクトを使用している。

⑰給水VLP(B)、給湯SUS(C)、排水(C)を使用。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2022年版v.1.1

(仮称)青葉補修基地建築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質					-		-	2.7
Q1 室内環境					0.40		-	2.8
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	-
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	-
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-	-
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				4.0	0.20	-	-	-
2 温熱環境				2.0	0.35	-	-	2.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	-
1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.38	-	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能		3.0	0.25	-	-	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		1.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		1.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境				3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 屋光利用				3.0	0.30	-	-	-
1 屋光率	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.60	-	-	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-	-	-
3 屋光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	-
1 屋光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	1.00	-	-	-
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境		4.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		4.0	1.00	-	-	-
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	-
1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.33	-	-	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		5.0	0.33	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.33	-	-	-
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	1.00	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1
1 機能性				2.8	0.40	-	-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性		1.0	0.33	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.33	-	-	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性		4.0	0.33	-	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性		5.0	0.33	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		1.0	0.33	-	-	-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.3	0.30	-	-	3.3
2.1 耐震・免震				3.8	0.50	-	-	-
1 耐震性	防 災	⑬耐震・免震		4.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能	防 災	⑬耐震・免震		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		4.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防 災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防 災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防 災	⑮信頼性		2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防 災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防 災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防 災	⑮信頼性		2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.0	0.30	-	-	-
1 階高のゆとり				4.0	0.60	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.4	0.40	-	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	-



CASBEE横浜2022年版v.1.1

(仮称)青葉補修基地建築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート			実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目			<非住宅> <集合住宅>		評価点		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑧生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑩地域性への配慮		2.0	0.50	-	-	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑪敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	-	3.6
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化		3.4	0.50	-	-	-	-	3.4
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	-	3.2
1	水資源保護				3.4	0.20	-	-	-	-	3.4
1.1	節水				4.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減				3.2	0.60	-	-	-	-	3.2
2.1	材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.20	-	-	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-	-	-	-
1	消火剤				-	-	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)				4.0	0.50	-	-	-	-	-
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮				3.6	0.33	-	-	-	-	3.6
2	地域環境への配慮				2.2	0.33	-	-	-	-	2.2
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	-	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.25	-	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	-	-
3	交通負荷抑制				1.0	0.25	-	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	-	-	-
3	周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	騒音				3.0	1.00	-	-	-	-	-
2	振動				-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭				-	-	-	-	-	-	-
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.3	光害の抑制				4.4	0.20	-	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-	-	-	-
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	-	-

上記以外の重点項目					-	-	-	-	-	-
<事務用途>										
知的生産性向上への取組			快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-	-	-
<住宅用途>										
健康と安心										
1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策		-	-	-	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策		-	-	-	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策		-	-	-	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策		-	-	-	-	-	-